

表 2 (1) 近年の水質の状況 (T-N, T-P)

水域名	類型	地点名	年度	全窒素(mg/L)※				全磷(mg/L)※			
				最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
大阪湾(イ)	IV	C-3	H20	0.69	2.00	1.07	1	0.053	0.160	0.093	0.09
			H21	0.54	1.80	0.90		0.066	0.210	0.102	
			H22	0.62	1.20	0.92		0.063	0.120	0.087	
		C-4	H20	0.33	1.30	0.69		0.020	0.110	0.060	
			H21	0.26	1.30	0.49		0.041	0.210	0.079	
			H22	0.34	0.96	0.57		0.028	0.080	0.049	
		C-5	H20	0.22	0.89	0.44		0.010	0.081	0.038	
			H21	0.13	0.58	0.29		0.032	0.078	0.054	
			H22	0.24	0.75	0.39		0.020	0.084	0.042	
		O-1	H20	1.60	1.80	1.68		0.099	0.190	0.130	
			H21	1.10	1.40	1.28		0.086	0.140	0.109	
			H22	1.10	1.50	1.30		0.070	0.130	0.099	
		O-2	H20	0.81	1.40	1.04		0.038	0.180	0.093	
			H21	0.70	2.00	1.14		0.060	0.140	0.096	
			H22	0.90	2.10	1.48		0.061	0.170	0.106	
		O-3	H20	0.62	1.30	0.87		0.070	0.110	0.087	
			H21	0.59	0.89	0.78		0.055	0.098	0.074	
			H22	0.52	1.00	0.76		0.040	0.130	0.074	
		S-1	H20	0.46	0.81	0.67		0.049	0.090	0.069	
			H21	0.27	1.10	0.65		0.026	0.039	0.030	
			H22	0.43	0.80	0.54		0.025	0.087	0.045	
		1	H20	0.26	0.74	0.55		0.032	0.100	0.059	
			H21	0.24	1.20	0.49		0.032	0.070	0.049	
			H22	0.27	0.65	0.45		0.034	0.070	0.051	
		2	H20	0.32	1.00	0.65		0.033	0.140	0.075	
			H21	0.30	1.00	0.59		0.033	0.110	0.064	
			H22	0.32	1.10	0.66		0.034	0.110	0.069	
		46	H20	0.88	3.00	1.70		0.046	0.082	0.065	
			H21	1.10	4.70	3.10		0.036	0.130	0.064	
			H22	-	-	-		-	-	-	

※:T-N、T-Pの統計値は日間平均値を用いている

出典:公共用水域データより作成

表 2 (2) 近年の水質の状況 (T-N, T-P)

水域名	類型	地点名	年度	全窒素(mg/L)※				全磷(mg/L)※			
				最小	最大	平均	基準値	最小	最大	平均	基準値
大阪湾(口)	Ⅲ	B-3	H20	0.33	1.30	0.56	0.6	0.026	0.110	0.055	0.05
			H21	0.17	0.89	0.38		0.029	0.083	0.051	
			H22	0.30	0.77	0.47		0.017	0.070	0.044	
		B-4	H20	0.25	0.96	0.46		0.022	0.110	0.046	
			H21	0.17	0.70	0.30		0.034	0.082	0.052	
			H22	0.25	0.59	0.33		0.017	0.064	0.038	
		B-5	H20	0.21	0.97	0.42		0.023	0.081	0.041	
			H21	0.10	0.39	0.23		0.025	0.063	0.042	
			H22	0.21	0.63	0.33		0.019	0.066	0.036	
		A-2	H20	0.23	0.69	0.39		0.027	0.054	0.039	
			H21	0.13	0.42	0.27		0.028	0.051	0.038	
			H22	0.19	0.59	0.30		0.021	0.050	0.033	
		28	H20	0.22	0.59	0.42		0.029	0.067	0.047	
			H21	0.23	0.72	0.36		0.030	0.067	0.041	
			H22	0.25	1.00	0.47		0.030	0.091	0.052	
		29	H20	0.23	0.72	0.47		0.034	0.120	0.053	
			H21	0.19	0.84	0.51		0.025	0.072	0.050	
			H22	0.28	0.93	0.50		0.030	0.073	0.054	
		32	H20	0.18	0.47	0.32		0.023	0.056	0.038	
			H21	0.19	0.61	0.34		0.021	0.056	0.036	
			H22	0.13	0.60	0.32		0.021	0.049	0.035	
大阪湾(ハ)	Ⅱ	A-3	H20	0.17	0.49	0.33	0.3	0.011	0.047	0.033	0.03
			H21	0.12	0.30	0.22		0.025	0.049	0.039	
			H22	0.22	0.55	0.34		0.019	0.053	0.034	
		A-6	H20	0.24	0.53	0.34		0.018	0.047	0.032	
			H21	0.11	0.48	0.22		0.022	0.048	0.034	
			H22	0.19	0.59	0.33		0.011	0.047	0.031	
		A-7	H20	0.17	0.37	0.28		0.019	0.046	0.033	
			H21	0.10	0.37	0.19		0.017	0.050	0.036	
			H22	0.15	0.60	0.29		0.018	0.054	0.034	
		A-10	H20	0.17	0.62	0.32		0.017	0.042	0.029	
			H21	0.10	0.40	0.19		0.026	0.055	0.035	
			H22	0.17	0.44	0.25		0.017	0.039	0.029	
		A-11	H20	0.14	0.33	0.22		0.020	0.060	0.032	
			H21	0.10	0.24	0.15		0.023	0.100	0.035	
			H22	0.17	0.35	0.24		0.018	0.034	0.027	
		34	H20	0.15	0.46	0.31		0.025	0.053	0.037	
			H21	0.15	0.38	0.28		0.023	0.045	0.032	
			H22	0.11	0.58	0.31		0.021	0.049	0.032	
		35	H20	0.16	0.36	0.24		0.023	0.040	0.031	
			H21	0.16	0.34	0.24		0.023	0.044	0.030	
			H22	0.13	0.30	0.21		0.021	0.037	0.027	
		38	H20	0.09	0.29	0.19		0.020	0.035	0.028	
			H21	0.14	0.28	0.19		0.021	0.034	0.027	
			H22	0.12	0.25	0.17		0.019	0.034	0.025	
		39	H20	0.14	0.23	0.18		0.018	0.036	0.026	
			H21	0.16	0.28	0.19		0.018	0.033	0.027	
			H22	0.13	0.26	0.16		0.018	0.032	0.024	
		95	H20	0.14	0.27	0.20		0.017	0.034	0.026	
			H21	0.14	0.26	0.18		0.017	0.038	0.025	
			H22	0.11	0.25	0.18		0.014	0.034	0.024	

※:T-N、T-Pの統計値は日間平均値を用いている

出典: 公共用水域データより作成

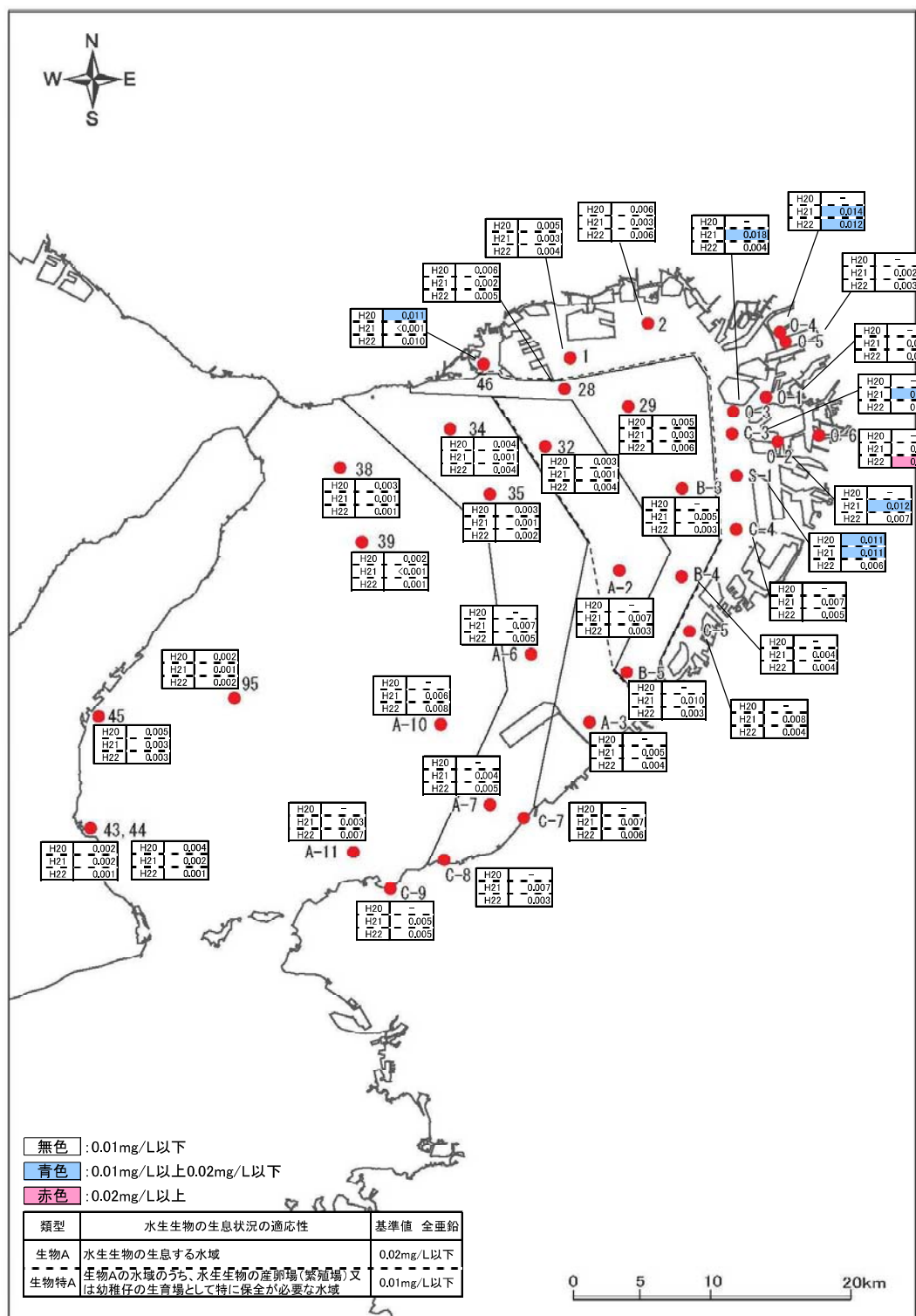


図2 全亜鉛の濃度分布 (年平均値)

表 3 近年の水質の状況（全亜鉛）

水域名※1	地点名	年度	全亜鉛※2
			平均値
大阪湾(1)	C-3	H20	-
		H21	0.016
		H22	0.005
	C-4	H20	-
		H21	0.007
		H22	0.005
	C-5	H20	-
		H21	0.008
		H22	0.004
	O-1	H20	-
		H21	0.004
		H22	0.005
	O-2	H20	-
		H21	0.012
		H22	0.007
	O-3	H20	-
		H21	0.018
		H22	0.004
大阪湾(2)	S-1	H20	0.011
		H21	0.011
		H22	0.006
	1	H20	0.005
		H21	0.003
		H22	0.004
	2	H20	0.006
		H21	0.003
		H22	0.006
	46	H20	0.011
		H21	<0.001
		H22	0.010
	B-3	H20	-
		H21	0.005
		H22	0.003
	B-4	H20	-
		H21	0.004
		H22	0.004
	B-5	H20	-
		H21	0.010
		H22	0.003
	28	H20	0.006
		H21	0.002
		H22	0.005
	29	H20	0.005
		H21	0.003
		H22	0.006
大阪湾(3)	A-2	H20	-
		H21	0.007
		H22	0.003
	A-3	H20	-
		H21	0.005
		H22	0.004
	32	H20	0.003
		H21	0.001
		H22	0.004
大阪湾(4)	A-6	H20	-
		H21	0.007
		H22	0.005
	A-7	H20	-
		H21	0.004
		H22	0.005
	34	H20	0.004
		H21	0.001
		H22	0.004
	35	H20	0.003
		H21	0.001
		H22	0.002
大阪湾(5)	A-10	H20	-
		H21	0.006
		H22	0.008
	A-11	H20	-
		H21	0.003
		H22	0.007
	38	H20	0.003
		H21	0.001
		H22	0.001
	39	H20	0.002
		H21	<0.001
		H22	0.001
	95	H20	0.002
		H21	0.001
		H22	0.002

※全亜鉛について

無色 : 0.01mg/L以下

青色 : 0.01mg/L超 0.02mg/L以下

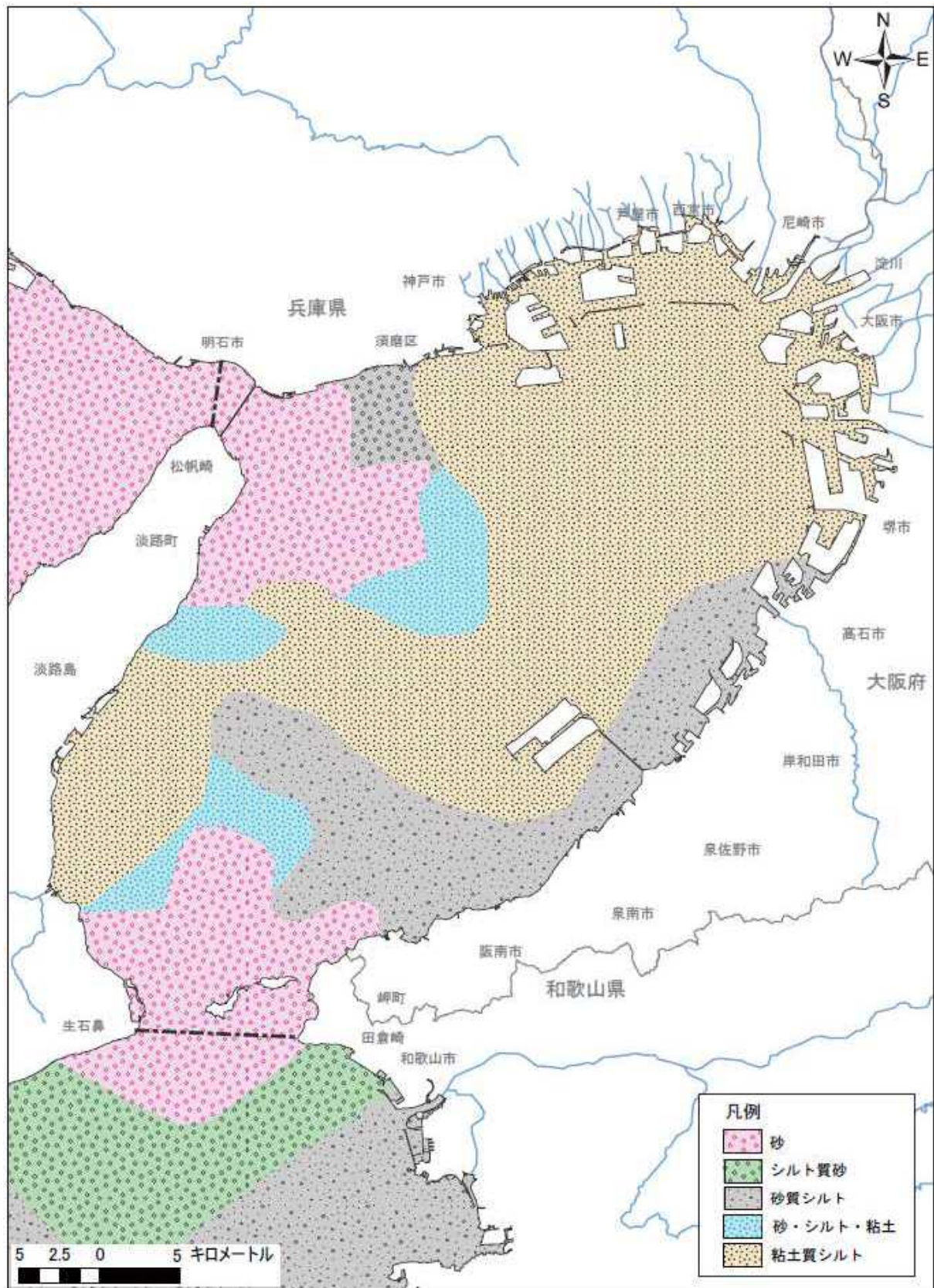
赤色 : 0.02mg/L超

※水生生物保全環境基準(海域)について

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値 全亜鉛
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L以下

※1:便宜的にCOD類型の水域名を用いた

※2:全亜鉛の統計値は日間平均値を用いている



出典：日本全国沿岸海洋誌（S60）より作成

注）砂：細粒分が5%未満、シルト質砂：細粒分が15%以上50%未満、砂質シルト：細粒分が50%以上、シルト：細粒分が50%以上、粘土：細粒分が50%以上、粘土質シルト：細粒分が50%以上（砂質シルト、シルト、粘土、粘土質シルトは、液性限界等の諸指数によって工学的に分類される）

図3 底質の分布状況

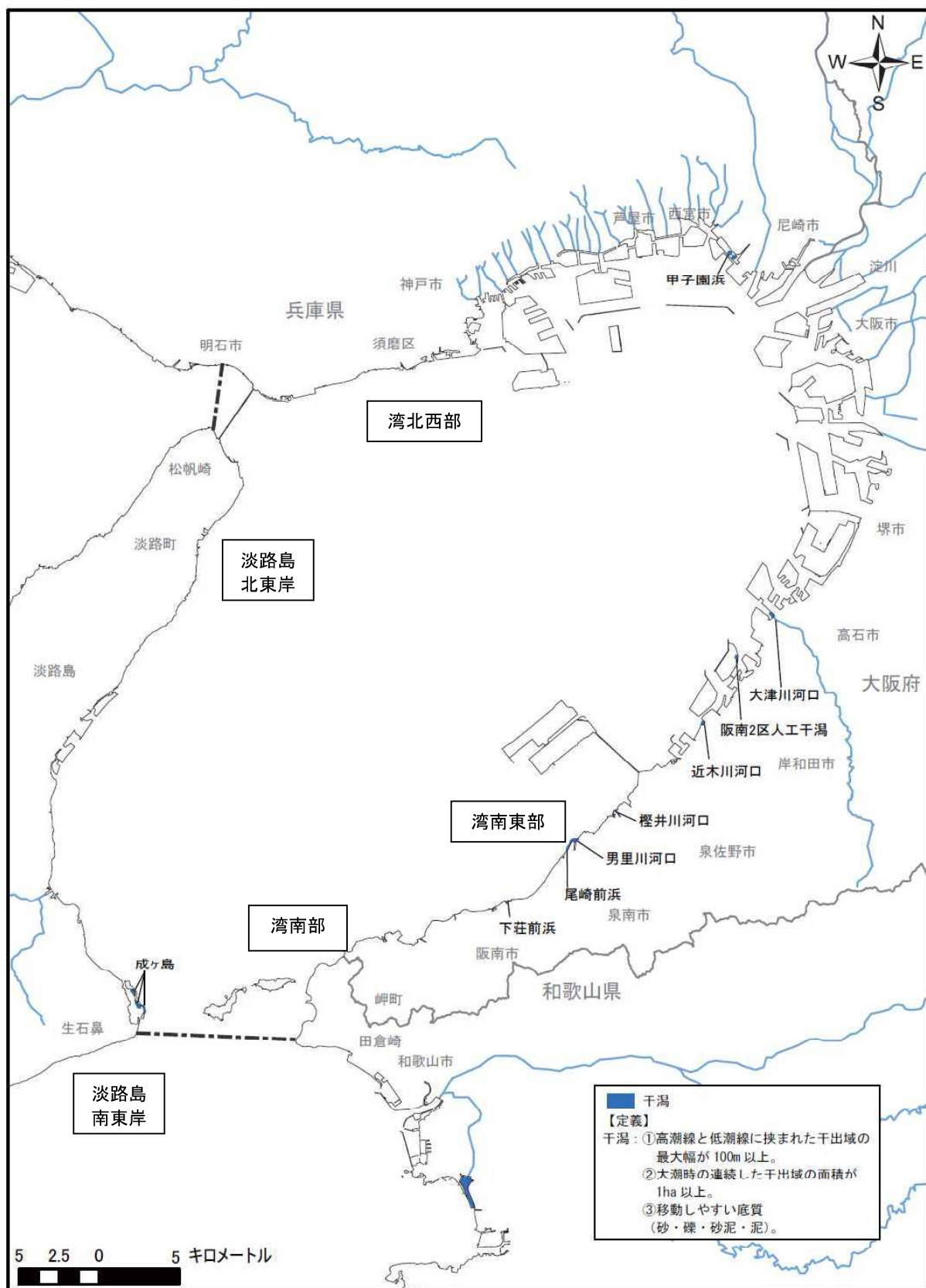


図4 主要な干潟の分布状況

出典：環境省（第4回自然環境保全基礎調査，H1～H4） ※兵庫県
 環境省（第5回自然環境保全基礎調査，H9～H13） ※大阪府、和歌山県

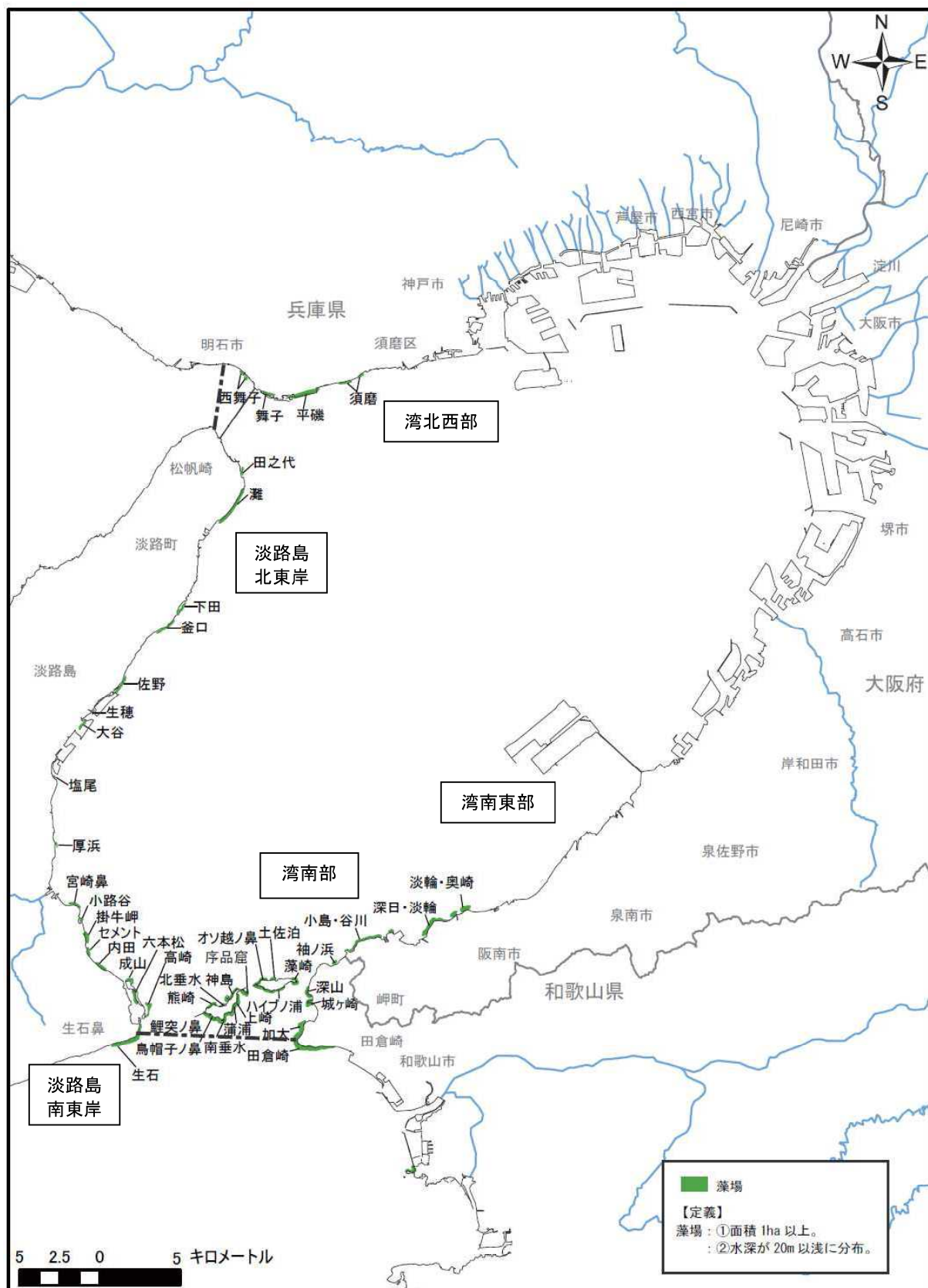


表 4 主要な干潟の概要

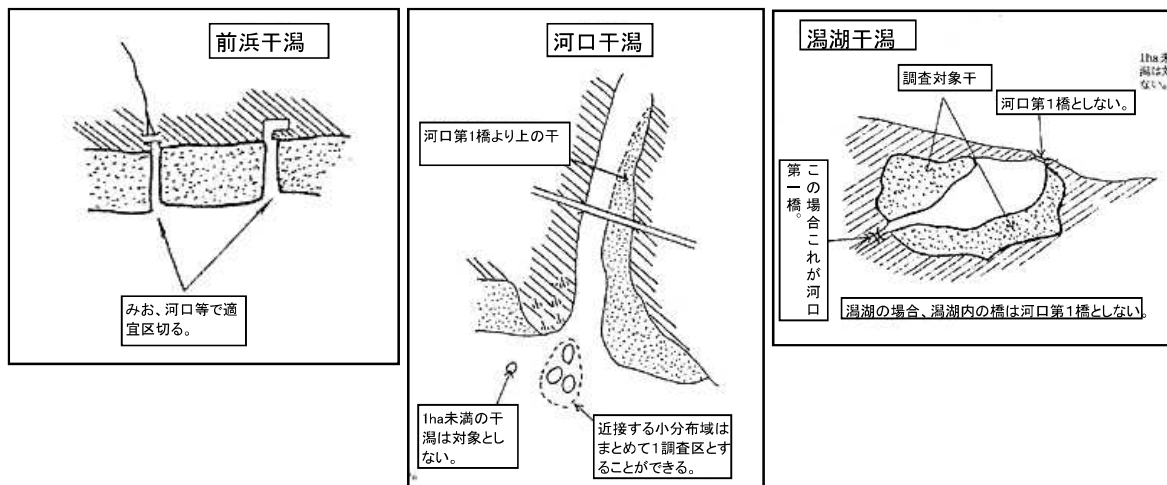
海域	府県	地名	干潟タイプ	底質	面積 (ha)
大阪湾北	大阪府	大和川河口(河川内を除く)	河口	砂	44.1
大阪湾北	大阪府	大津川河口(河川内を除く)	河口	砂	11.5
大阪湾北	大阪府	阪南2区人工干潟	人工干潟	砂	5.4
大阪湾北	大阪府	近木川河口(河川内を除く)	河口	泥	1.8
大阪湾北	兵庫県	甲子園浜	前浜	—	2
大阪湾南	大阪府	樫井川河口(河川内を除く)	河口	泥	4.1
大阪湾南	大阪府	男里川河口(河川内を除く)	河口	砂泥	5.2
大阪湾南	大阪府	尾崎前浜	前浜	砂	6.4
大阪湾南	大阪府	下荘前浜	前浜	砂	2.3
大阪湾南	兵庫県	成ヶ島	前浜	—	7
大阪湾南	兵庫県	成ヶ島	前浜	—	4
合計					93.8

注1)対象干潟 ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。
 ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。
 ・移動しやすい底質(砂、礫、砂泥、泥)であること。

注2)干潟タイプ 下図のとおり前浜干潟、河口干潟、潟湖干潟及びその他(人工干潟等)に分類される。

注3)調査区設定方法

現在干潟の調査区設定・面積等の把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲(分布域)を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準(下図のカッコ内)に準ずる。



注4)底質: 礫: 粒径2mm以上
 砂: 0.1~2mm
 泥: 0.1mm以下
 砂泥: 砂と泥の混合

出典: 環境省(第4回自然環境保全基礎調査, H1~H4) ※兵庫県
 環境省(第5回自然環境保全基礎調査, H9~H13) ※大阪府・和歌山県

表 5 主要な藻場の概要

海域	府県	地名	藻場タイプ	疎密度	面積 (ha)
大阪湾北	兵庫県	須磨	アオサ・アオリ場	—	2
大阪湾北	兵庫県	平磯	ワカメ場	—	52
大阪湾北	兵庫県	舞子	ワカメ場	—	4
大阪湾北	兵庫県	西舞子	ワカメ場	—	3
大阪湾南	大阪府	淡輪・奥崎	ワカメ場、テングサ場、アオサ・アオリ場	密生	8.7
大阪湾南	大阪府	深日・淡輪	ガラモ場、アラメ場、ワカメ場	密生	22.9
大阪湾南	大阪府	小島・谷川	ガラモ場、アラメ場、ワカメ場	密生	5.2
大阪湾南	兵庫県	田之代	ワカメ場	—	6
大阪湾南	兵庫県	灘	アラメ場	—	18
大阪湾南	兵庫県	下田	ガラモ場	—	15
大阪湾南	兵庫県	釜口	ガラモ場	—	3
大阪湾南	兵庫県	佐野	アオサ・アオリ場	—	2
大阪湾南	兵庫県	生穂	アオサ・アオリ場	—	2
大阪湾南	兵庫県	大谷	アマモ場	—	6
大阪湾南	兵庫県	塩尾	アマモ場	—	2
大阪湾南	兵庫県	厚浜	ワカメ場	—	1
大阪湾南	兵庫県	宮崎鼻	アラメ場	—	5
大阪湾南	兵庫県	小路谷	アラメ場	—	1
大阪湾南	兵庫県	掛牛岬	アラメ場	—	4
大阪湾南	兵庫県	セメント	アラメ場	—	4
大阪湾南	兵庫県	内田	アオサ・アオリ場	—	2
大阪湾南	兵庫県	成山	ワカメ場	—	3
大阪湾南	兵庫県	六本松	アマモ場	—	4
大阪湾南	兵庫県	高崎	テングサ場	—	16
大阪湾南	和歌山県	深山	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	藻崎	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	ハイブノ浦	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	13.0
大阪湾南	和歌山県	序品窟	ガラモ場、アラメ場、テングサ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	上崎	ガラモ場、アラメ場、テングサ場、アオサ・アオリ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	蒲浦	アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	南垂水	アラメ場、テングサ場	濃生	6.0
大阪湾南	和歌山県	鳥帽子ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	鯉突ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	熊崎	アラメ場、テングサ場	濃生	3.0
大阪湾南	和歌山県	北垂水	アラメ場、テングサ場	濃生	1.0
大阪湾南	和歌山県	神島	アラメ場、ワカメ場、テングサ場	濃生	5.0
大阪湾南	和歌山県	オソ越ノ鼻	アラメ場、テングサ場	濃生	4.0
大阪湾南	和歌山県	土佐泊	アラメ場、テングサ場	濃生	2.0
大阪湾南	和歌山県	袖ノ浜	アマモ場	不明	3.0
合計					263.8

注1)対象藻場 ・面積が1ha以上であること。
・水深が10m以浅に分布すること。

注2)藻場タイプ アマモ場:アマモ、コアマモ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ガラモ場:ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種(優占種)となっている藻場。
アラメ場:アラメ・カジメ・クロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。
ワカメ場:ワカメ・ヒロメ等が代表種(優占種)となっている藻場。

注3)疎密度: 濃生:海底面がほとんど植生で覆われている。
密生:海底面より植生の方が多い。
疎生:植生より海底面の方が多い。

出典: 環境省(第4回自然環境保全基礎調査, H1~H4) ※兵庫県
環境省(第5回自然環境保全基礎調査, H9~H13) ※大阪府・和歌山県

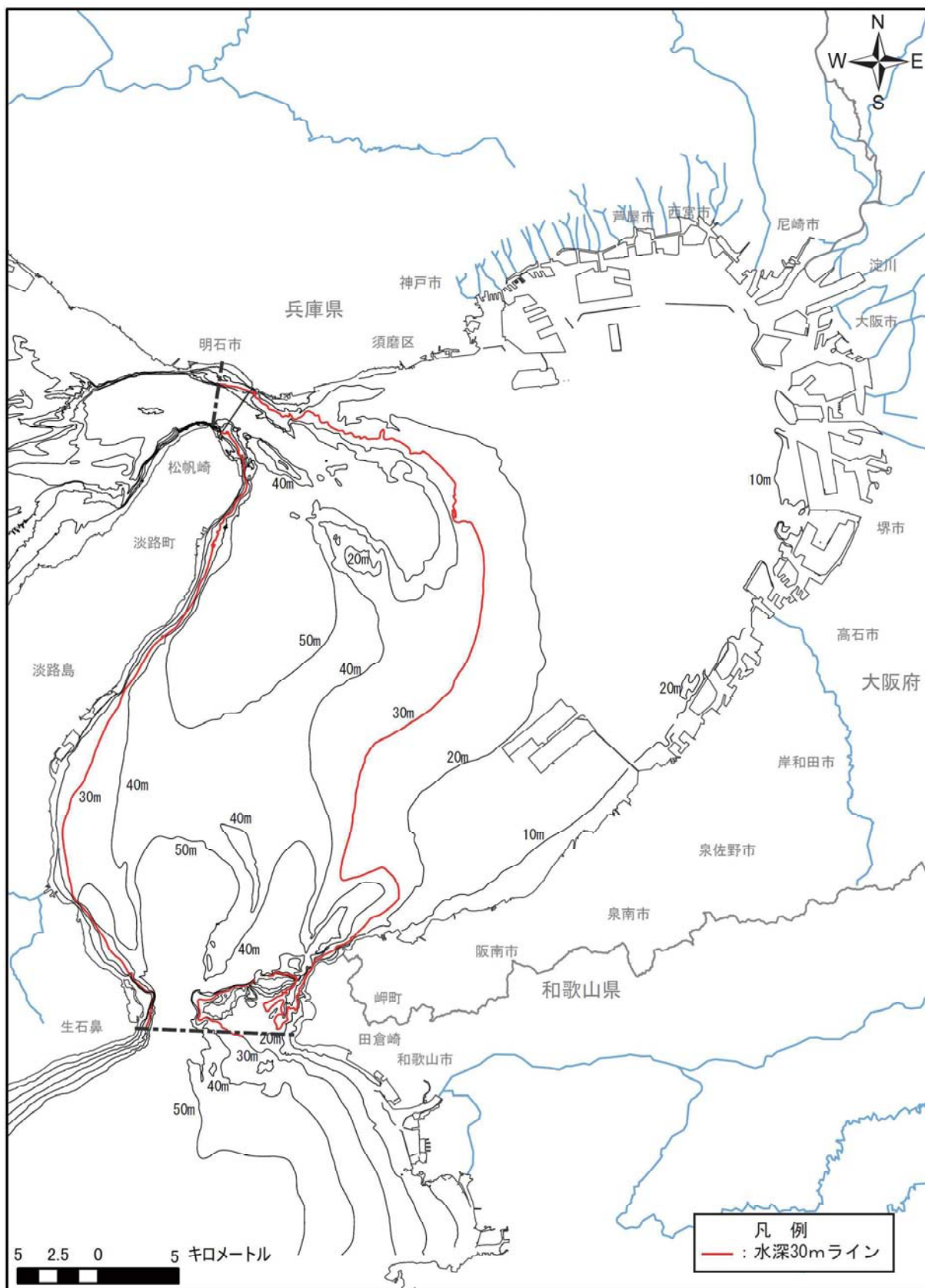
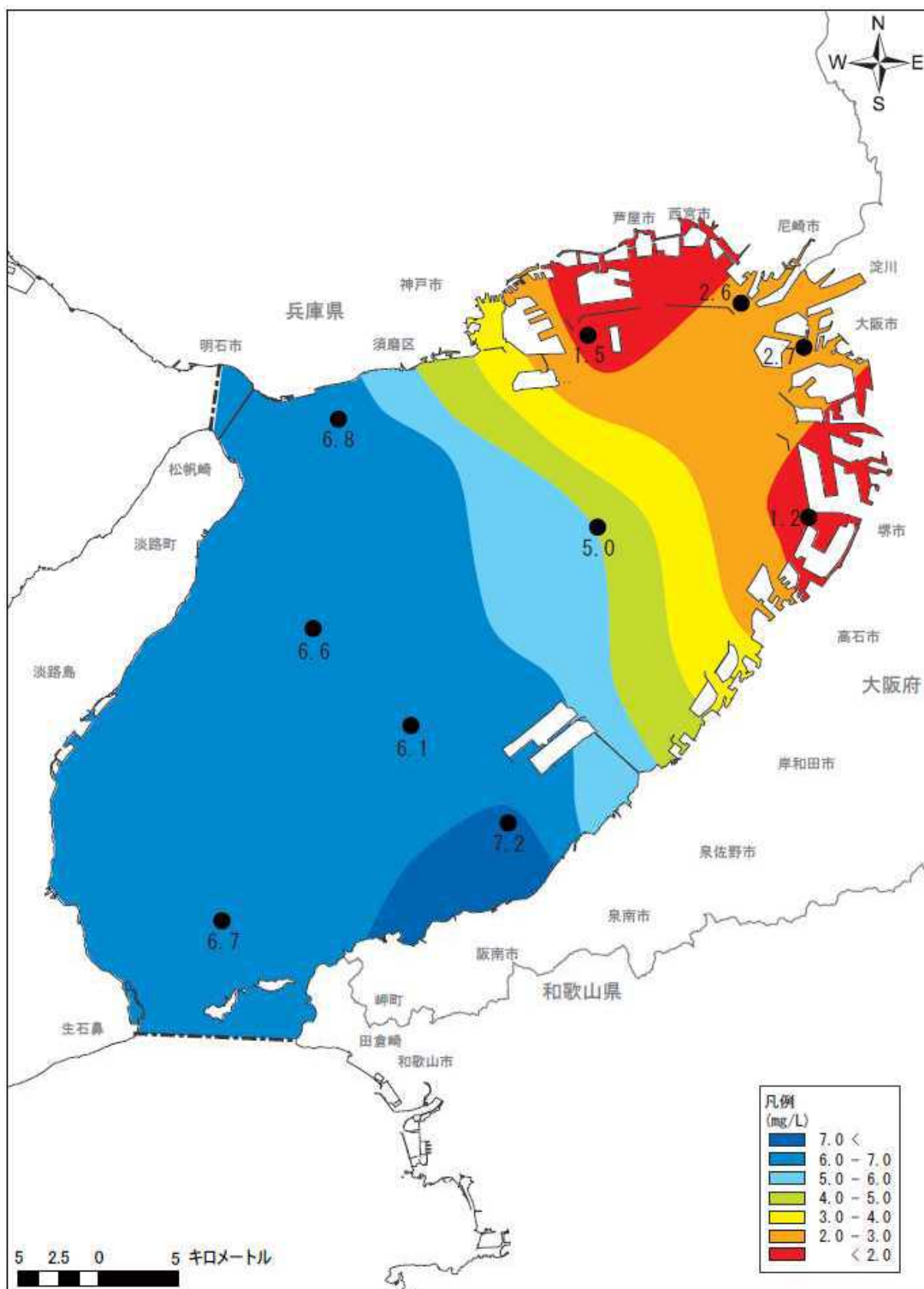


図 6 主要な浅場



※平成 19～21 年の夏季底層 DO のうち、3mg/L 以下のエリアが最も大きくなった平成 21 年を掲載した。

※測定位置：海底直上 1m

出典：広域総合水質調査（環境省）より作成

図 7 夏季底層 DO の分布状況

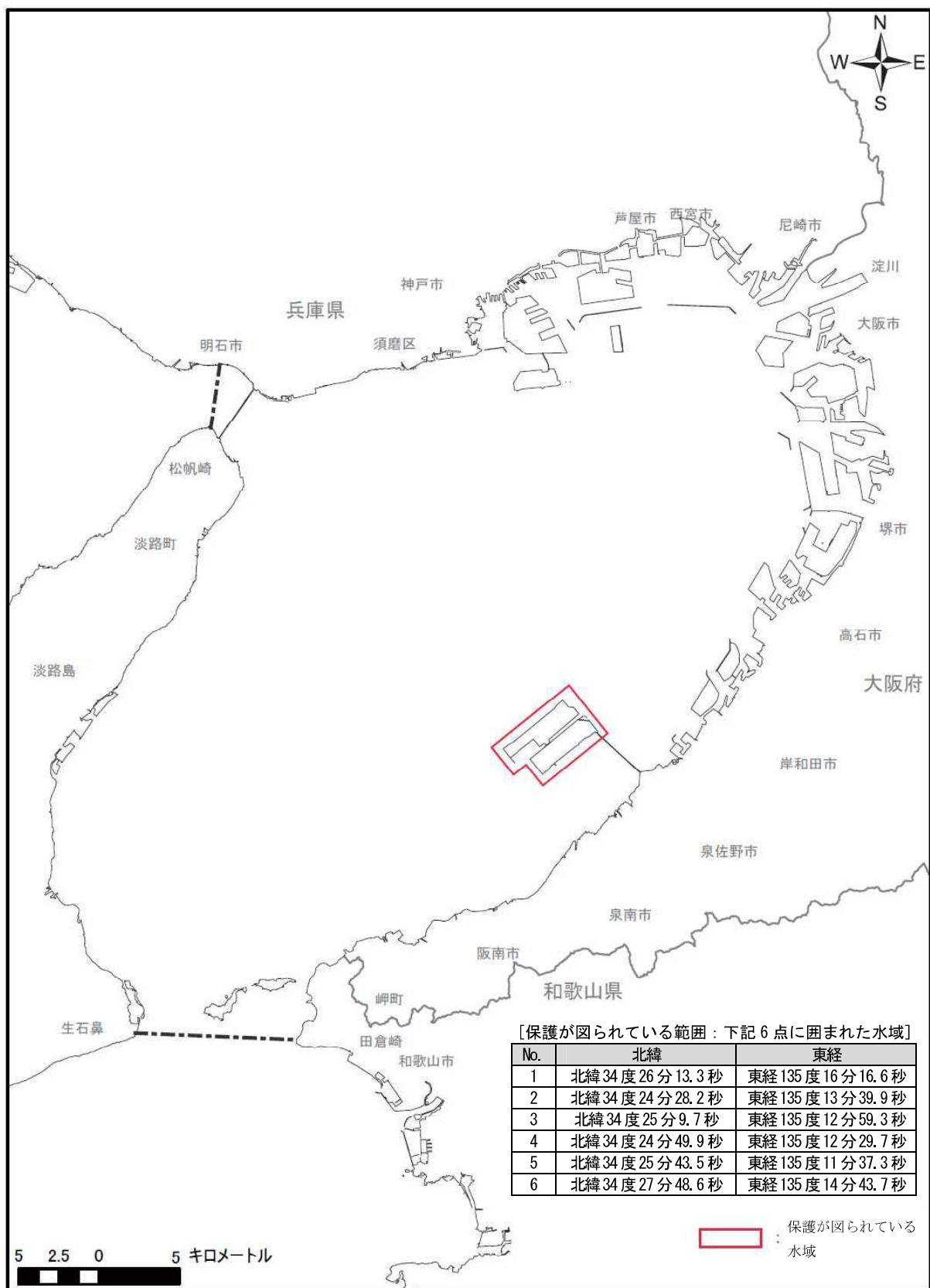


表 6 主要魚介類の選定結果

①瀬戸内海における主な魚介類		②周年定住種	③大阪湾における漁獲量上位種	④保護水面対象種	⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等特定域に該当する種	⑥選定結果	選定理由
魚類	イカナゴ	○	○	保護水面なし			
	コノシロ	○	○				
	マコガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	イシガレイ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	メイタガレイ	○	○				
	ヒラメ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	タマガシノウビラメ						
	イスノシタ						
	クロダイ	○	○				
	マダイ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	ヘダイ		○		○		
	イボダイ	○	○				
	スズキ	○	○		○	◎	生育場が砂浜性藻場に依存する。
	アカカマス						
	イサキ						
	シイラ						
	ニベ	○	○				
	シログチ	○	○				
	ペラ	○					
	カサゴ	○			○		
	メバル	○			○		
	アイナメ	○					
	トカゲエソ	○					
	マエソ						
	サワラ	○	○				
	マナガツオ						
	カタクチイワシ（シラス）		○				
	タチウオ		○				
	サバ		○				
	マアジ		○				
	マルアジ						
	ブリ		○				
	マイワシ		○				
	ハモ		○				
	マアナゴ		○				
	ウナギ						
	ボラ		○				
	カワハギ						
	トラフグ	○					
	シロザメ						
	アカエイ						
イカ・タコ類	マダコ	○	○				
	イイダコ	○					
	テナガダコ	○					
	コウイカ	○	○				
エビ・カニ類	スルメイカ		○				
	ガザミ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	シャコ	○					
	クルマエビ	○	○		○	◎	生育場が干潟に依存する。
	アカエビ	○					
	キシエビ						
	ヨシエビ	○					
貝類	アサリ	○			○		
	アカガイ	○					
	サルボウ	○			○		
	タイラギ	○					
	トリガイ	○					
	バカガイ	○			○		
	ハマグリ	○			○		
	マデガイ	○					
棘皮類	サザエ	○			○		
	マナマコ	○					

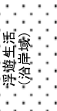
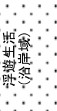
①主な魚介類：以下の文献により抽出した。
「瀬戸内海の生物資源と環境（岡市ら、1996）」
「瀬戸内海のさかな（瀬戸内海水産開発協議会編、1997）」
「日本全国沿岸海洋誌（日本全国沿岸海洋研究会編、1985）」
②周年定住種：以下の文献を参考に判断した。
沿岸至近域における海洋生物の生態知見（魚類・イカタコ類編）（（財）海洋生物研究所、1991）
沿岸至近域における海洋生物の生態知見（貝類・甲殻類・ウニ類編）（（財）海洋生物研究所、1991）
新版魚類学（下）改訂版（落合明・田中克、1998）
水産生物の生活史と生態（（社）日本水産資源保護協会、1985）
水産生物の生活史と生態（続）（（社）日本水産資源保護協会、1986）
水生生物生態資料（（社）日本水産資源保護協会、1981）
水生生物生態資料（続）（（社）日本水産資源保護協会、1983）
③漁獲量上位種：②の魚種のうち、「瀬戸内海及び太平洋南区における漁業動向（平成7年～16年）中国四国農政局統計部」の漁獲量が50位以内の種。
④保護水面対象種：水産資源保護法に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。
⑤産卵場・生育場が藻場・干潟・サンゴ礁の特定域に該当する種
魚介類の生態特性により、産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟、サンゴ礁のいずれかを利用するものに○を付した。岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。
⑥選定結果：②、③、⑤全ての項目に該当する魚介類。

表 7 (1) 主要魚介類 (7 種) の生態特性

主要魚介類		卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)										その他
					卵	仔魚期	稚魚期	泥	干潟	砂・泥	アマモ場	砂・礫	岩礁	アラシ場	カシメ場	ガラモ場	コンブ場	
スズキ	分離浮性卵		表層	浮遊生活(沿岸域) (仔魚後期はマモ場・河口域周辺に移動する)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(変態期まで)(水深10m前後)	底性生活					稚魚期(体長12~60mmまで)						河川域:稚魚期(体長12~60mmまで)
			表層下10m															
			11~20m															
			21~30m															
			31~40m															
			41~50m															
マコガレイ	付着性卵		51m~	岩礁域(外海水の影響を受ける水深50~80m)	浮遊生活(沿岸域)	海底塊状粘着	浮遊生活(変態期まで)(水深10m前後)	底性生活(30m以上)		稚魚(30m以上)								
			表層															
			表層下10m															
			11~20m															
			21~30m															
			31~40m															
イシガレイ	分離浮性卵		41~50m	内湾(水深30m以上浅の定置域)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活から底性生活へ移行(仔魚期変態期以降)	底性生活(10m以上浅の定置域)		稚魚(30m以上)									
			51m~															
			表層															
			表層下10m															
			11~20m															
			21~30m															
ヒラメ	分離浮性卵		31~40m	沿岸域(水深20~50mの砂泥・砂礫・岩礁)	浮遊生活(沿岸域)	浮遊生活(変態期まで)(変態期~中層20mに多く分布)	底性生活(10m以上)		稚魚(10m以上)									
			41~50m															
			51m~															
			表層															
			表層下10m															
			11~20m															

出典:沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカ・タコ類編) (財)海洋生物研究所(1991)
 新版魚類学(下)改訂版 (後台明・田中克, 1998)
 水産生物の生活史と生態 (社)日本水産資源保護協会(1985)
 主要対象生物の養育段階の生態的知見の収集整理 (平成18年度水産資源整備調査委託事業報告書:水産庁2006)

表7 (2) 主要魚介類 (7 種) の生態特性

主要魚介類	卵形態	水深	産卵場	主な分布状態			幼稚仔魚の分布域(底質環境)											
				卵 	仔魚期 浮遊生活(仔魚後期:水深10m前後)	稚魚期 底性生活(水深20m以浅)	泥	干潟 (25m以浅)	砂・泥 稚魚(水深20m以浅)	アマモ場 稚魚(水深20m以浅)	砂・礫	岩礁	アラメ場					その他
													アラメ場	カジメ場	ガラエ場	コンブ場	その他藻場	
マダイ	分離浮性卵	表層	岩礁域(水深30~100m)		浮遊生活(仔魚後期:水深10m前後)	底性生活(水深20m以浅)				稚魚(水深20m以浅)	稚魚(水深20m以浅)							
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
クルマエビ	浮性卵	表層	水深10m以深の沖合域							砂泥域(25m以浅)								
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																
ガザミ	浮性卵	表層	砂泥域(10m以浅)							砂泥域(10m以浅)								河口域 (10m以浅)
		表層下~10m																
		11~20m																
		21~30m																
		31~40m																
		41~50m																

出典: 沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカ・タコ類編) ((財)海洋生物研究所,1981)
新版魚類学(下)改訂版(総合編・田中克,1998)
水産生物の生活史と生態 ((社)日本水産資源保護協会,1985)
主要対象生物の養育段階の生態的知見の収集整理 (平成16年度水産資源整備調査委託事業報告書,水産庁2006)

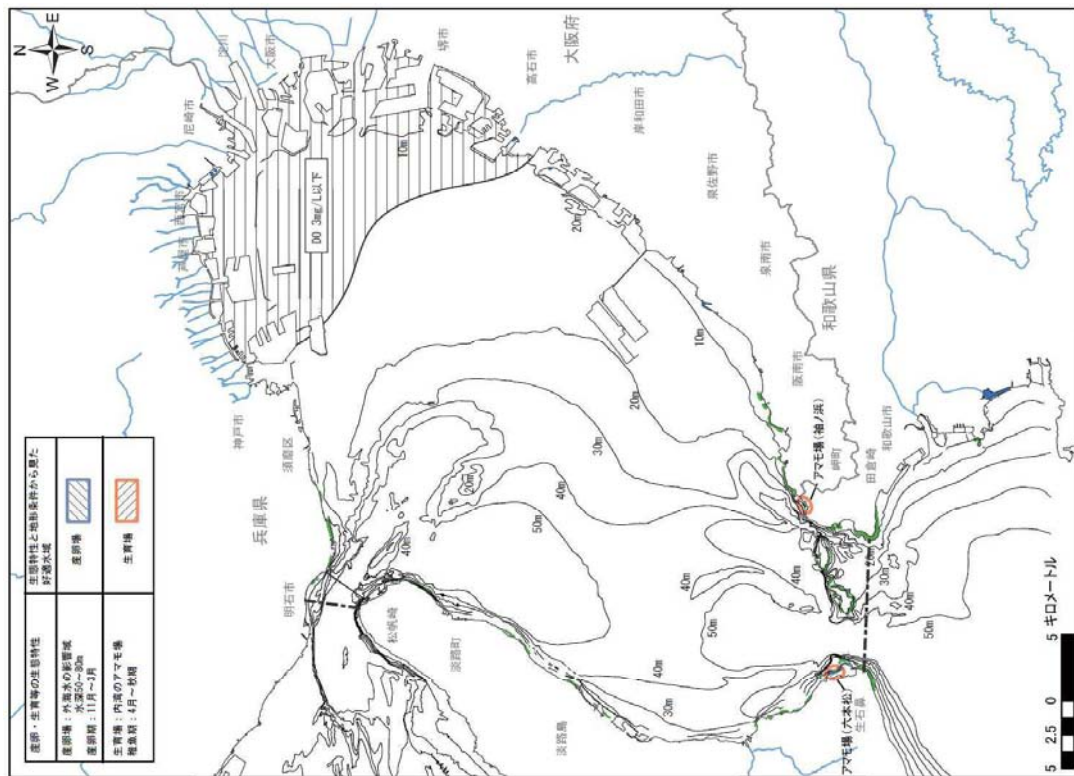
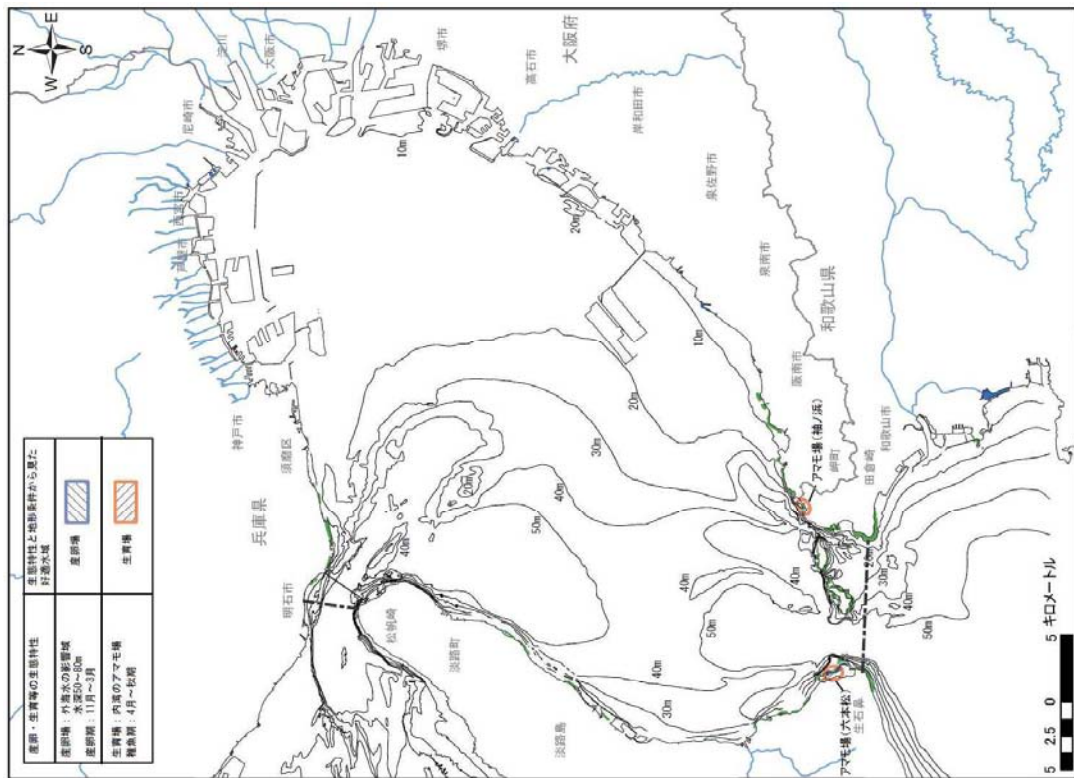
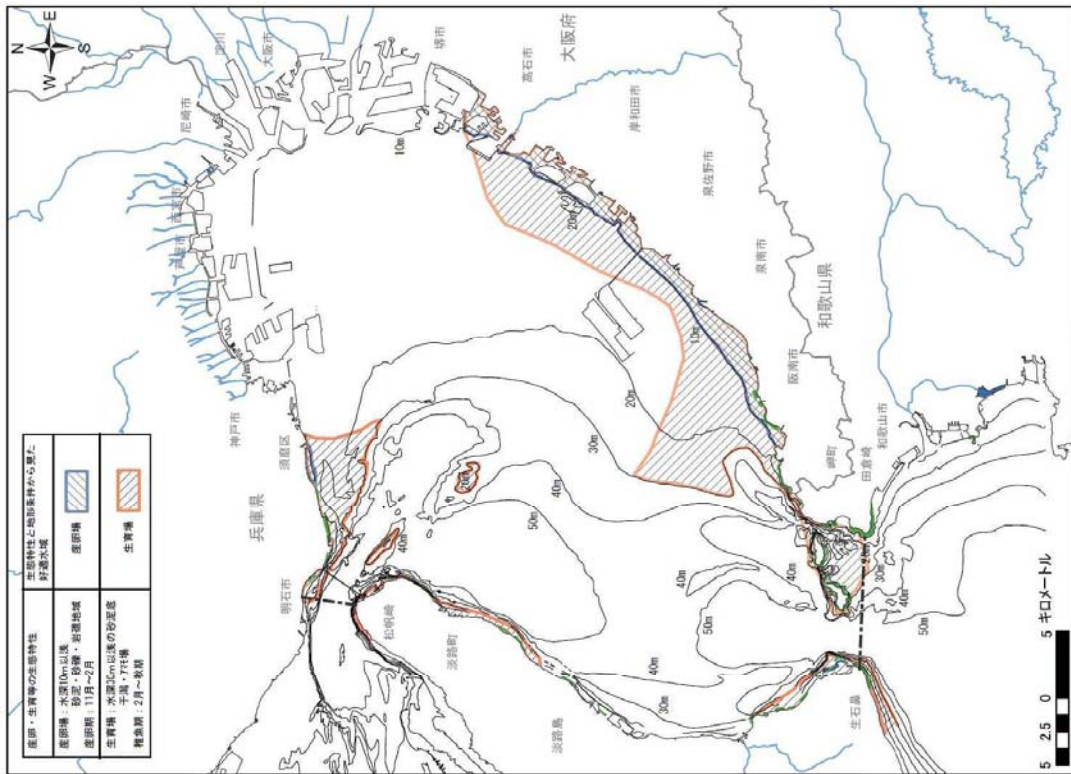
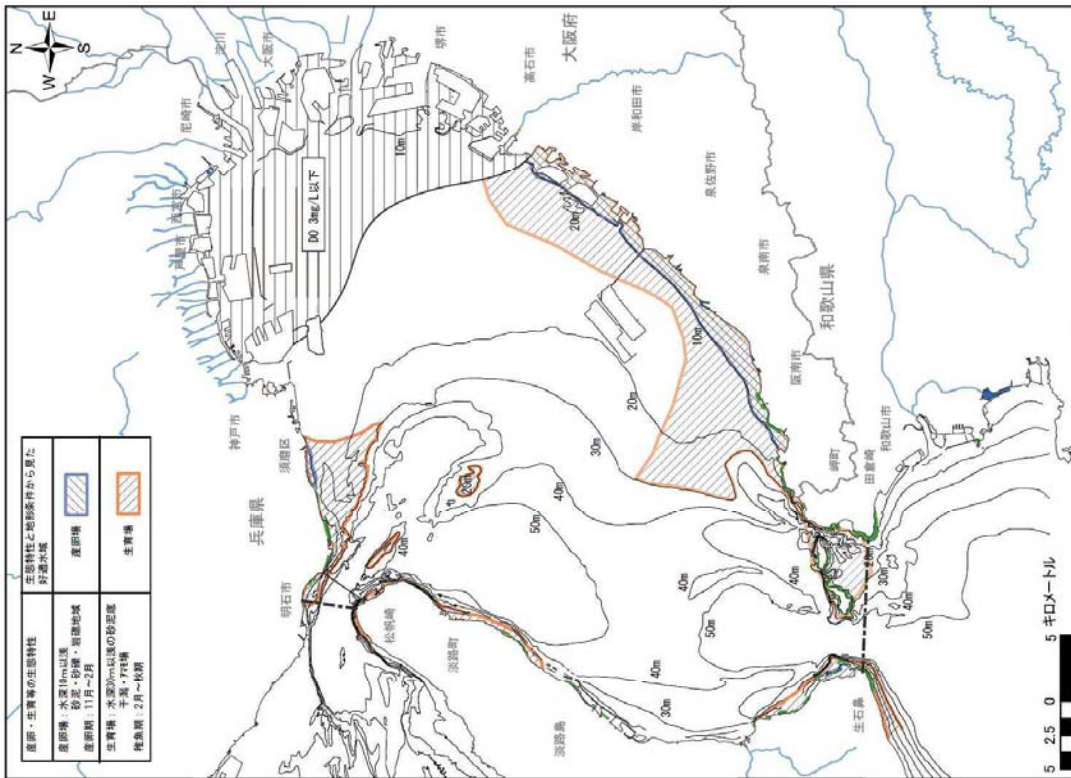


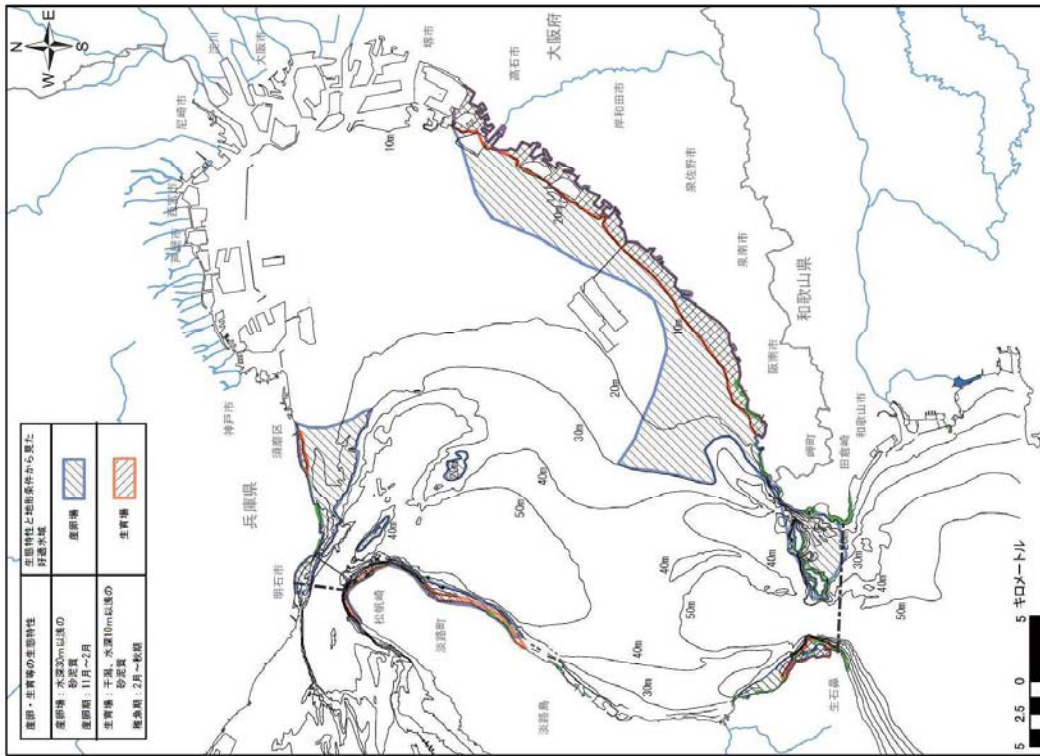
図 9(1) スズキの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）



大阪湾 生態特性、地理条件からみた好適な水域
【魚種：マコガレイ（産卵場）（生育場）】

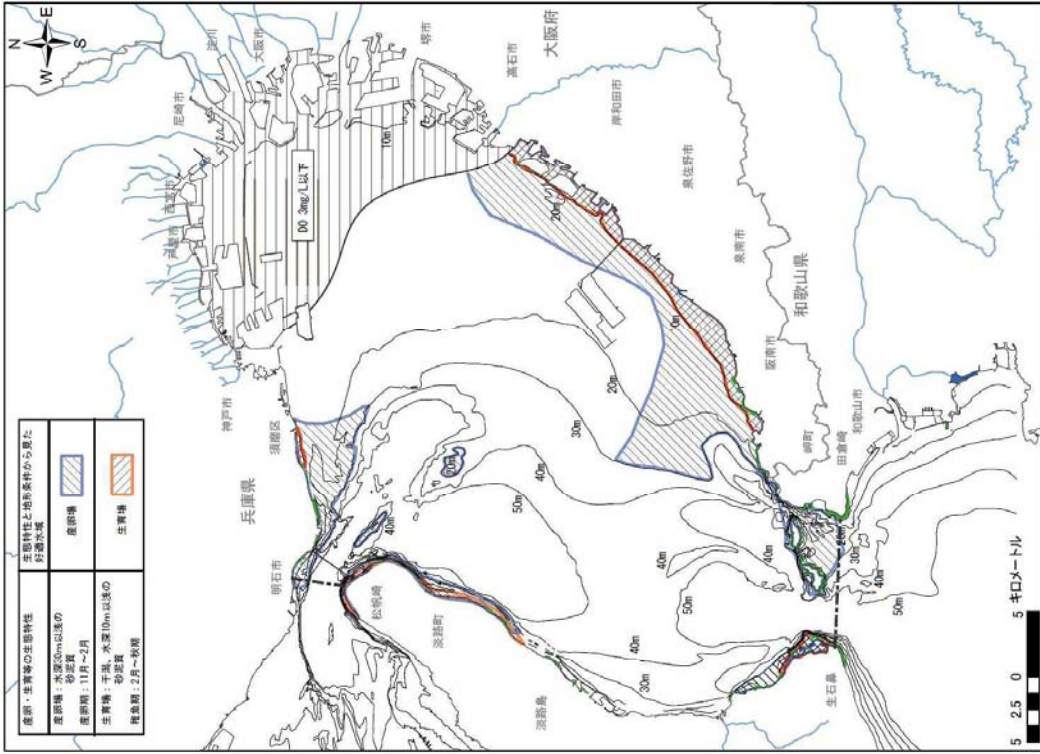


大阪湾 生態特性、地理条件及び水質条件からみた好適な水域
【魚種：マコガレイ（産卵場）（生育場）（D0 好適水域）】
図 9 (2) マコガレイの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）



大阪湾 生態特性、地理条件からみた好適な水域

【魚種：イシガレイ（産卵場）（生育場）】



大阪湾 生態特性、地理条件及び水域条件からみた好適な水域

【魚種：イシガレイ（産卵場）（生育場）（D0 好適水域）】

図 9 (3) イシガレイの生態特性、海域の地理条件・水質条件からみた好適な水域（産卵場・生育場）